

渋沢平九郎

と 飯能戦争

飯能から越生へ平九郎の足跡をたどる



渋沢栄一の養子・平九郎
渋沢史料館所蔵

渋沢平九郎は、渋沢栄一の弟でもありません。慶応3（1867）年正月に栄一がフランスに渡る際にその見立て養子となります。栄一によれば、平九郎は風采、容貌ともに秀でて、誠に氣立が良く、剣術は大変優れ、若い割にはとても強かったそうです。また字を好み、和歌をよくする教養人でもあったようです。

平九郎は、栄一の養子となると、住み慣れた故郷武蔵国榛沢郡下手計村（現在の深谷市）を離れ、江戸本銀町三丁目（現在の中央区日本橋室町三丁目）で幕臣の子として生活を始めま

す。しかしちよūdとその頃、時代の嵐が容赦なく平九郎の人生に吹き荒れます。將軍徳川慶喜が大阪奉還を上表し、江戸幕府が無くなってしまったのが無くなってしまったのです。

12月の王政復古の号令、翌年1月の鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争の始まり）と時代が大きく展開していく中で若き平九郎は大いに迷います。兄の尾高惇忠のもとへ行き相談したり、フランスにいる栄一宛に「痛心の至」と書簡を送っていました。そして、幕臣の子として忠義の道を尽くすことを決意したのです。栄一とともに一橋家の家臣となつたといこの渋沢平九郎（喜作）や兄の尾高

惇忠とともに、振武軍を結成し、その幹部として飯能戦争に参加し明治新政府と戦います。しかし武運拙く敗れ、成一郎や惇忠たちとはぐれてしまった平九郎は、一人で奥武蔵の山中を逃走し、顔振峠を超え、ついに黒山村（越生町）で広島藩兵に追い詰められ自刃してしまふのです。激動の時代を生き抜いた20年の生涯でした。

飯能戦争から約半年後の明治元（1868）年11月、渋沢栄一がフランスから帰国します。栄一は、平九郎が飯能戦争で討ち死にしたことを知り、明治6（1873）年に今市村（越生町）の法恩寺から埋葬されていた平九郎の首を引き取ります。さらにその翌年には平九郎の骸を収容して谷中墓地に改葬しました。当初骸が埋葬された黒山村の全洞院には墓石が建てられました。

後年、法恩寺には「渋沢平九郎埋首の碑」が建立されました。



飯能市長 新井 重治

越生町の皆さんこんにちは。
今年NHK大河ドラマで飯能戦争と振武軍として戦った渋沢平九郎が取り上げられ、飯能市では、市立博物館においてパネル展「飯能と渋沢栄一」を開催するなど、郷土の歴史を知る機会となっています。
これも、平九郎終焉の地である越生町と振武軍の戦いの地となった本市において、若くして亡くなった平九郎への思いと飯能戦争が、明治の初め以来、語り継がれてきたためだと考えています。
今後も、平九郎と飯能戦争ゆかりの地として盛り上げてまいりましょう。



深谷市長 小島 進

越生町の皆さんこんにちは。
今年渋沢栄一翁没後90年という節目の年です。この記念すべき年に栄一翁が主人公で、越生町ともゆかりの深い渋沢平九郎も登場する大河ドラマ『青天を衝け』が放送され好評です。
深谷市では、ドラマの世界を体感していただける『渋沢栄一 青天を衝け 深谷大河ドラマ館』も開館しており、尾高惇忠生家（平九郎の生家）などもございますので、ぜひお出かけいただければと存じます。
栄一翁と平九郎の縁を活かし、越生町の皆様とともに盛り上げてまいりましょう。



渋沢平九郎の墓(全洞院)
平九郎自決の地に近い全洞院にあり、明治7年に渋沢栄一によって建てられた。(越生町黒山734)



渋沢平九郎自決の地
顔振峠から北側の谷に下りたところにある平九郎終焉の地。広島藩の斥候兵に取り囲まれ、奮戦の後自刃した。(越生町黒山)



渋沢平九郎埋首の地(法恩寺)
さらされた平九郎の首が葬られた法恩寺に立っている。(越生町越生704)



能仁寺
振武軍など旧幕府方の本営が置かれた場所で、振武軍の幹部であった平九郎もここにいたと考えられる。(飯能市飯能1329)



中清米店袖蔵(飯能戦争以前の建物)
飯能戦争は飯能の町も戦場になった。飯能戦争当時の建物で現存しているものはほとんどないと思われる。(飯能市本町1-1)